

不定期発刊

府中浜田教室



まなびの達人

<https://www.all100ten.me>



- 指導者：松本真也
- 電話：080-8231-1400
- 住所：府中町八幡1-15-4

● 発刊の主旨

学習の上達にはココロの成長が不可欠と日々思い続けてきました。

そこで、どうすれば子どもの心が成長できるか。学習に向き合えない子どもへの声かけの方法は？など、ゴルフのメンタルトレーナーとしても研究を重ねてきた経験も踏まえて、いろいろなテーマで私の考えをお伝えできればと考えています。面談でご相談いただいた悩みなど解消するきっかけとなれば幸いです。



～今回のテーマ～ 『自ら学びに向かう子どもに育てる』

勉強する子に変える声掛け

第1回目のテーマは学研教室の基本理念でも掲げられている、「自ら学びに向かう力を育てる」です。面談の際も、このことにお話しさせて頂いていますが、私が理想とするのは子どもたちが「学びを楽しむ」ようになることです。

人間の脳は快楽に感じることにしか継続することができないと言われていています。ダイエットが続かない理由は満腹という快楽がなくなってしまうからです。もし「勉強は苦痛に思ってもしなければいけないもの」と嫌がる勉強を押し付けてしまうと、こどもの心はいつか破綻してしまいます。親の言うことを聞いてくれなくなる、何事にも無関心・無気力になる、最悪の場合は非行にはしってしまう、など心の病気を引き起こすことにもなりかねません。

具体的な目標のため・夢や願望をかなえるために勉強が必要であれば、苦痛を感じても続けることができます。ですが、なんのために勉強するのかという目的を持つことが難しい小学生に“やらなきゃいけないもの”として勉強を押し付けるのは、かえって勉強嫌いを助長させる結果にしかありません。

でも安心してください、本来学ぶことは人間の脳にとって快楽なのです。「できなかったことができるようになる」、「知らなかったことを知る」、「もやっとした考え事がすっきり解決する」、全部気持ちいいことです。なのに子どもたちがそう感じられないのはアプローチの方法を間違えているからです。

その「アプローチとは何か？」のひとつが、今回のテーマ『声掛け』です。子どもたちに学習が気持ちいいと実感させるための声掛けと刷り込み（笑）が大切です。

右の表をご覧くださいとわかるように、勉強が嫌いになる一番の理由は、学習内容がわからないうえにつまらないと感じることです。ここは学研教室でわかることから学習することで解消できますね♪

つづいての理由が命令されること。「勉強しなさい」「宿題しなさい」は禁句なのです。「でも何も言わないとぜんぜん勉強しないんです」という声が聞こえてきそうですが、要は命令口調にならないことが大切です。仕事をイメージしてください、「何やってんだ！明日までに数字あげろ！」と命令されると「あ～やってらんねー無理にきまってるー」と大人でも愚痴をこぼしちゃいますよね？（命令されてもついていきたくなる上司であれば受け取り方は違います。親子でもその信頼関係を築くことが大切）

また、他の人と比べられることもやる気をなくす原因になります。「○○さんはよくできるのに…」「お父さんは小学校程度の勉強でわからなかったことなんかないぞ」「お兄さんとちがって計算が苦手ねー。」など、特に兄弟姉妹は比較しがちですが大切なのはその子を見てあげること。比較するのであれば、その子自身の昔と今を比べてできるようになったことの気づきを与えることです。

勉強が嫌いになる理由（トップ3）

1. わからない
2. 命令される
3. 比べられる



学習に向かう意識の現状を知る

声掛けをする際に重要になってくるのが、お子様が学習に対してどう感じているかを把握することです。すでに学習を楽しんでできている子には、「よくできたらご褒美をあたえる」ということが逆効果になります。

「好きか嫌いか」・「楽しんでいるか」「やるべきことと捉えているか」「できれば逃げ出したいと思っていないか」など、今の気持ちを把握して、その気持ちに寄り添った言葉を選ぶ必要があります。特に嫌々勉強している子どもにはその気持ちにまず共感し、どうすれば勉強に向き合えるか心の声を聞き出さないといけません。つまり、どんな声をかければ良いかを知るためには親の聴く力が重要になるのです。業務連絡ではない、こころの会話ができていますか？

声掛けの具体例（勉強が苦手な子Ver.）

NGポイントと改善例

<悪い例>

母「宿題やったん？」
母「もうすぐご飯よ、はよときんさい！」
…（食事の後）
母「宿題は？」
母「さっきやるっていったじゃろ！」
母「さっさとしんさい！」
…（その1時間後）
母「そういえばテストはどうだったん？」
母「ええけみせんさい！」
ぺらっ
母「1問だけ間違い？もったいない！」
母「なんでこんな簡単な間違えるかなー」
母「学校のテストは授業聞いてれば全部100点取れるの！
〇〇ちゃんはいつも100点で言ってたよ。」
母「あなたはできないんだから、もっと勉強しなさい！」
（自分の都合ばかりでちっとも聞いてくれない）

●「宿題やったの？」・「宿題は？」は場合によっては「どうせやってないと思うけど、一応聞いてみる」という親の疑いの心を見抜かれるので危険です。子どもは信用されていないと感じてしまいます。

《こう変える》
⇒「学校（学研）の宿題はどんなのが出てる？ちょっと見せて？」
やったかどうかを疑ってないことを示す。また、学習内容を共有することが第一歩です。共有できたらどう感じているかも聞けるとベストです。

●「はやく、しなさい！」と親の都合で学習を促さないこと。

《こう変える》
できないのには理由があるので（たとえゲームが忙しいでも立派な理由です）その理由を解決する方法と一緒に考える。
⇒「何時（なんじ）にはじめるか決めてちょうだい」やる・やらないの余地をなくしつつ、いつやるかは子どもに決めさせる。自分で決めた約束は比較的守りやすいものです。

●「1問だけ間違い？もったいない！」

●「なんでこんな簡単なの…」

⇒難しいかどうかは親が決めないこと！子どもも簡単と思っていて、ケアレスミスをしたと感じていけば頭が悪くせいではなく練習不足と認識させること。

●「〇〇ちゃんはいつも100点」

⇒人と比べないの大原則、言わない！

●「あなたはできない（できる子もできなくなります）詳しくはピグマリオン効果で検索してみてください。」
⇒「ここまでたくさん難しいと思ってたことができるようになったんだから、あなたは天才よ！」

●「もっと勉強しなさい！」息の根が止まるNGワード。
《こう変える》
命令文は主語を“お母さんは”にして言い換える。
「勉強してもっとできるようになったらお母さんは嬉しいな」

ここまで読まれたら、受験する意味に共感いただけるかと思います。今回は全員受験をお願いします。



明日の学力診断についてのご案内

実施日：10月13日(火)

さて、お子様の学習に向かう意識はどのステージにいるのでしょうか？明日の学力診断ではそのステージがわかるアンケート調査も含まれています。お子様の学習に対する気持ちは日々変化していきますので、前回受験された方も今回の調査でもう一度確認していただきたいと思います。

「学年相当の学力ですら不安なのに発展的なテストなんて受ける力はない。」「できないと子どもがやる気をなくすのでは？」という声もありますが、できなかったことも肯定的に受け止めてほしいと思います。「まだこんなにできないことがある♪できるようになったらすごいね！がんばればできるようになるよ！」という言葉は必ず学習への励みになります。

また一年前のテストを振り返ってみてください、本人も成長に気づくところがあるはずですよ。そこで「がんばったね」とお子様の頑張りを認めて、あなたのことをしっかり見ているんだよと伝えてあげることが何よりのご褒美です。そのご褒美を子どもたち全員にプレゼントしたいので、特に理由がない限り全員受験をお願いできればと思います。

今回は学習日を利用して診断を行います。受験を希望されない会員様は通常通りの学習を行います。